

# “エクジスR・エクジスワイドR” 取付取扱い説明書

- 新日軽の製品をお買上げいただき誠にありがとうございます。
- 正しい施工をしていただくため当説明書をお読みください。
- 積雪地方でのご使用は避けてください。
- 強風時には補助柱をご使用ください。
- 埋設物（ガス管・水道管）の有無を確認の上、柱位置を設定してください。
- サイドパネルをお取り付けいただく場合は、サイドパネル用柱の柱内取付説明書を先にご覧ください。

## ■工事店様へのお願い

- 新日軽のアルミ製品は、JISの表面処理規定を、十分クリアした製品をお届けしていますが、取扱いによっては異常腐食をおこし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点を注意してください。
- (1) モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
- (2) モルタルやコンクリートの抽出液が工事中にアルミ製品の表面を流れないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になります。
- (3) モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、

塩化カルシウムや塩素系の化合物・硅酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。

- (4) 施工時にアルミ製品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
  - (5) アルミ製品と鋼板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
  - (6) 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
- みだりに改造等の仕様変更は避けてください。  
●施工終了後、説明書は施主様へお渡しください。

## ■施工上の注意

- 商品の施工については必ず取付説明書に従ってください。また、施工完了後に説明書を施主様にお渡しください。
- カーポートには一般地域用や積雪地域用があります。設置する地域の気象条件に合わせて、適応したものをご使用ください。
- 屋根の雪などが落下の恐れのある場所、または強風が屋根を吹き上げる恐れのある場所への設置はしないでください。
- カーポートを傾斜地に設置する場合は、低い場所の柱の埋め込み深さを確保してください。
- シャッターボックスや庇の下には設置しないでください。離して設置していただくか、逆側に水勾配をつけるようにしてください。

## ■安全にお使いいただくために必ずお守りください。

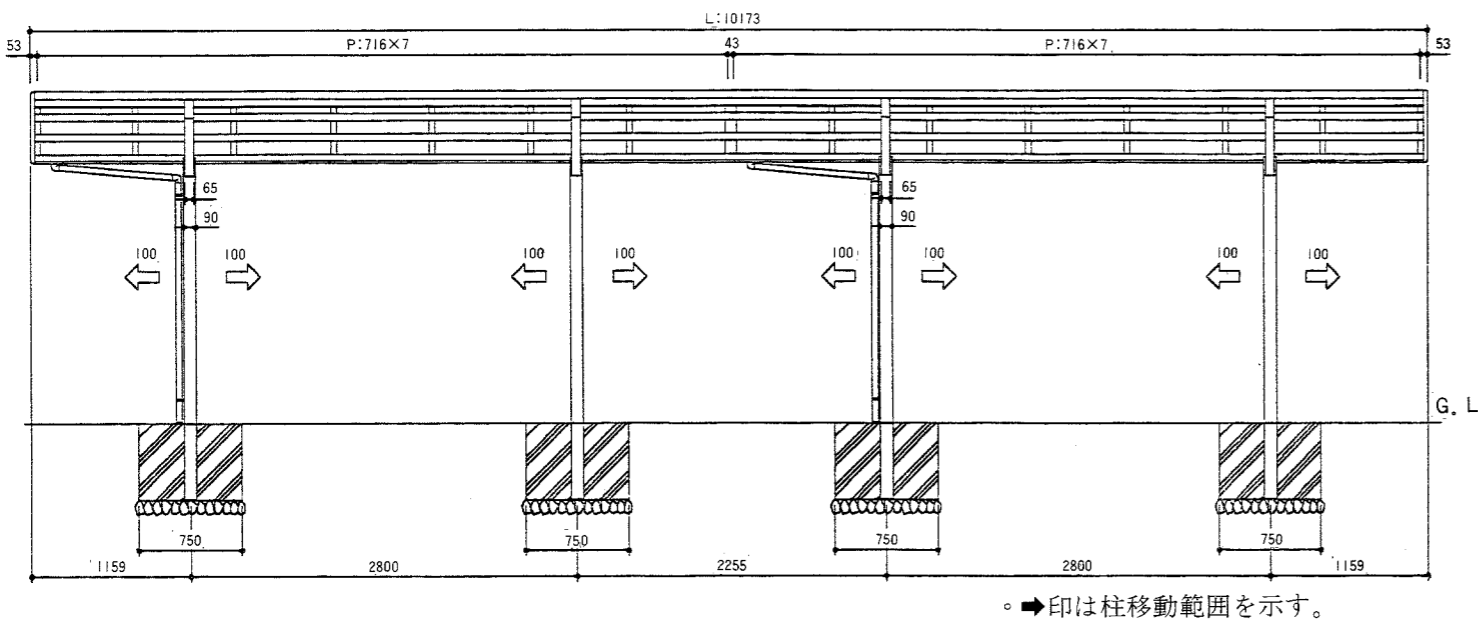
お願いしたいこと…この取扱い説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味
	この表示を無視して、取扱いを誤ると使用者が損害を負う危険や物的損害の発生が予想されることを表しています。

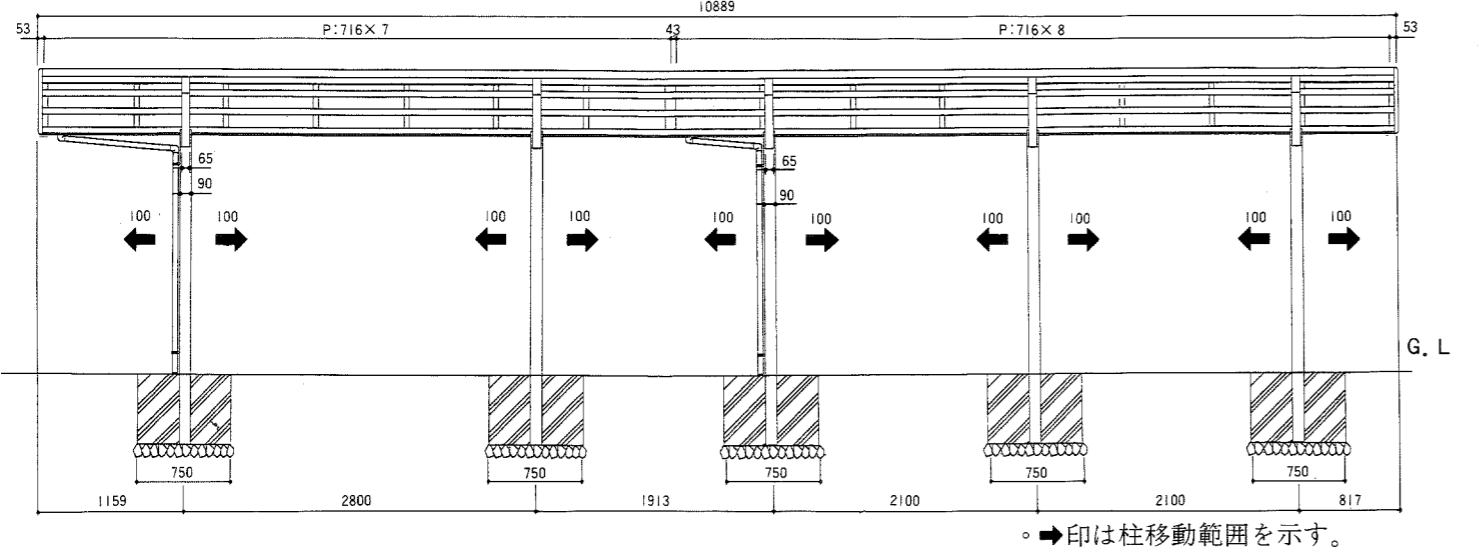
### 注意事項

- ⚠ **注意** ●積雪が20cmを越える前に雪降ろしをしてください。屋根が雪の重さでつぶれ落ちる危険があります。
- ⚠ **注意** ●強風時、片側支持式カーポート、自転車置場をご使用されている場合は、補助柱（別売）を付けてください。
- 当製品は地上設置高さ5m以下（1階設置）、風速30m/秒に耐える仕様となっています。常時風当たりの非常に強い場所（崖縁等）、又は軟弱地盤での設置は避けてください。
- ⚠ **注意** ●当製品は簡易型車庫、自転車置場、渡り廊下です。物置き、遊び場、或いは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造、変更をしないでください。

## ■連棟タイプ姿図 L:51+L:51

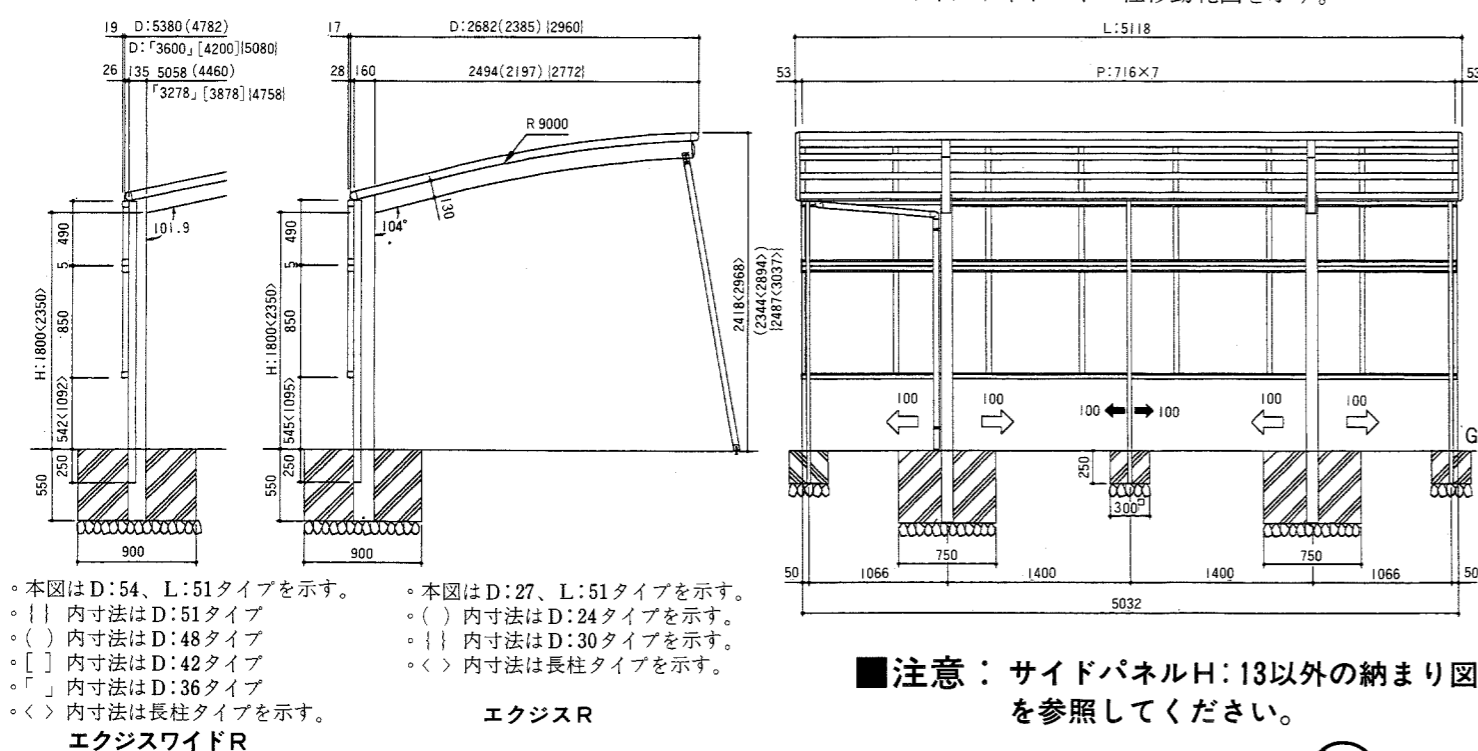


L:51+L:58



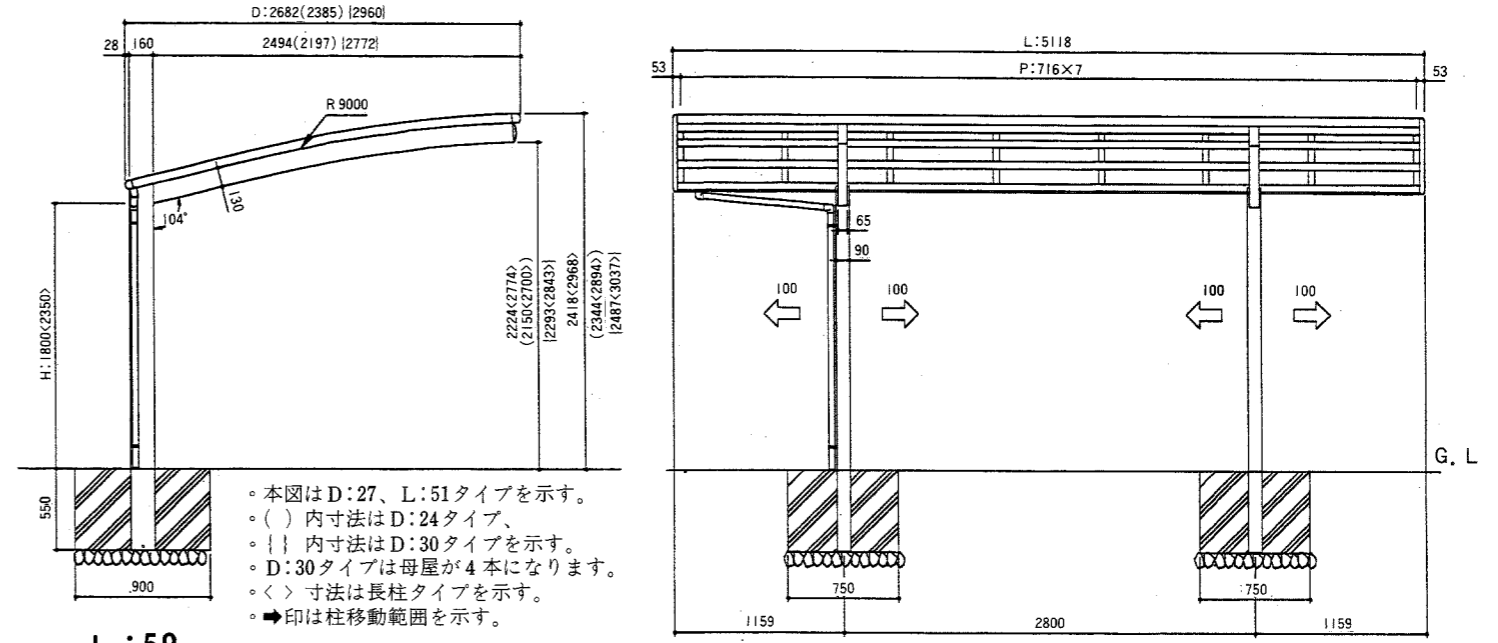
●印は柱移動範囲を示す。

## ■サイドパネル2段仕様 (H:13) L:51

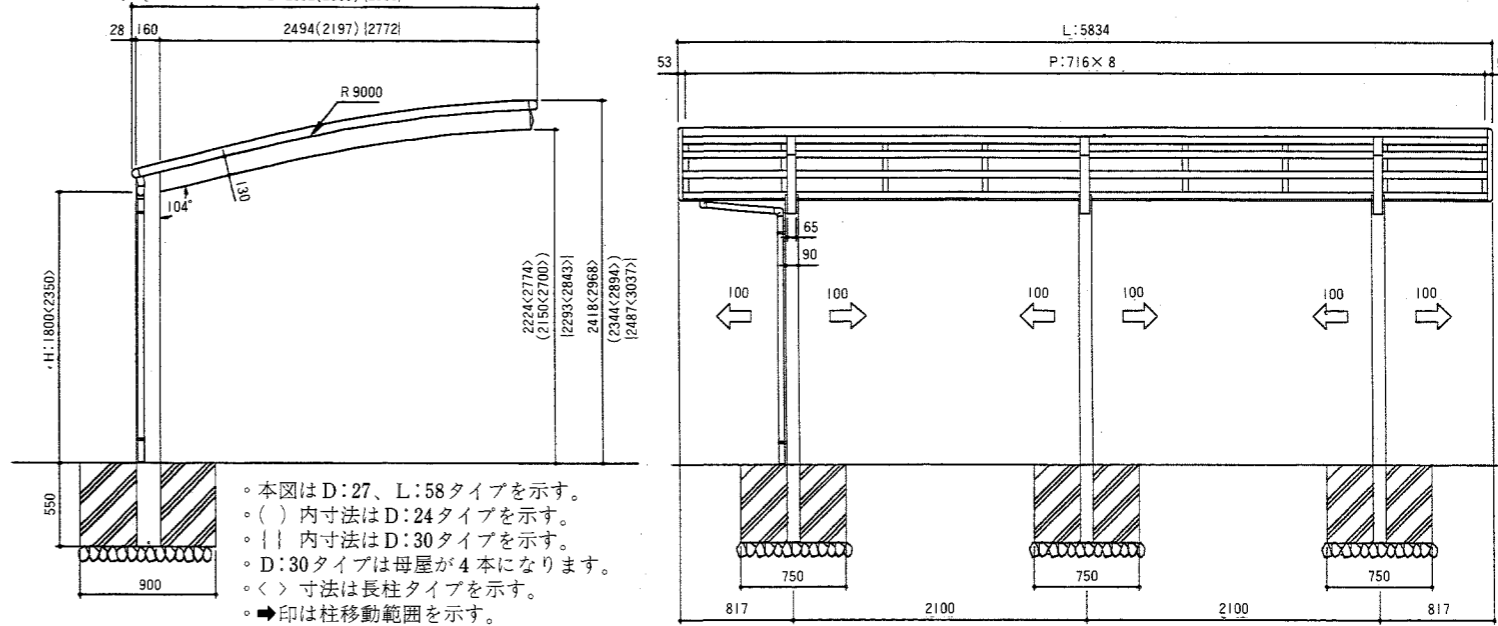


●注意：サイドパネルH:13以外の納まり図については、サイドパネル柱梱包内の取説（ME-1078）を参照してください。

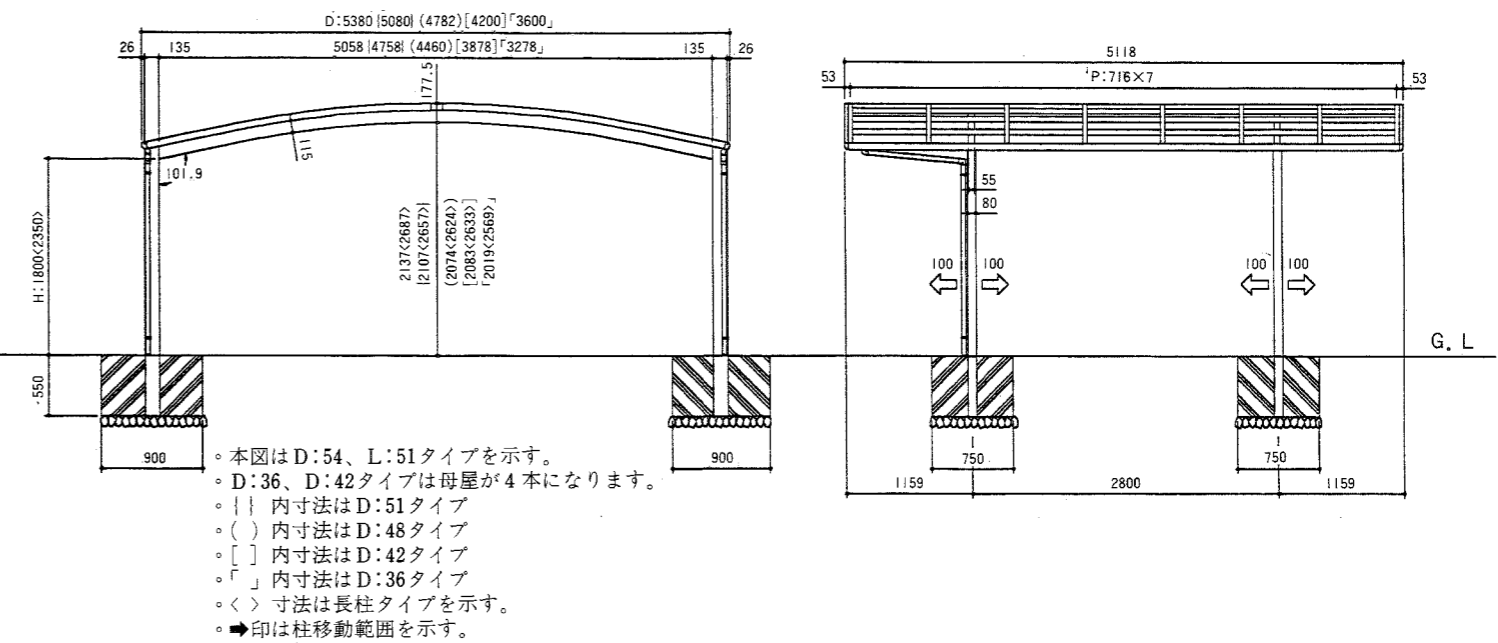
## ■エクジスR単体姿図 L:51



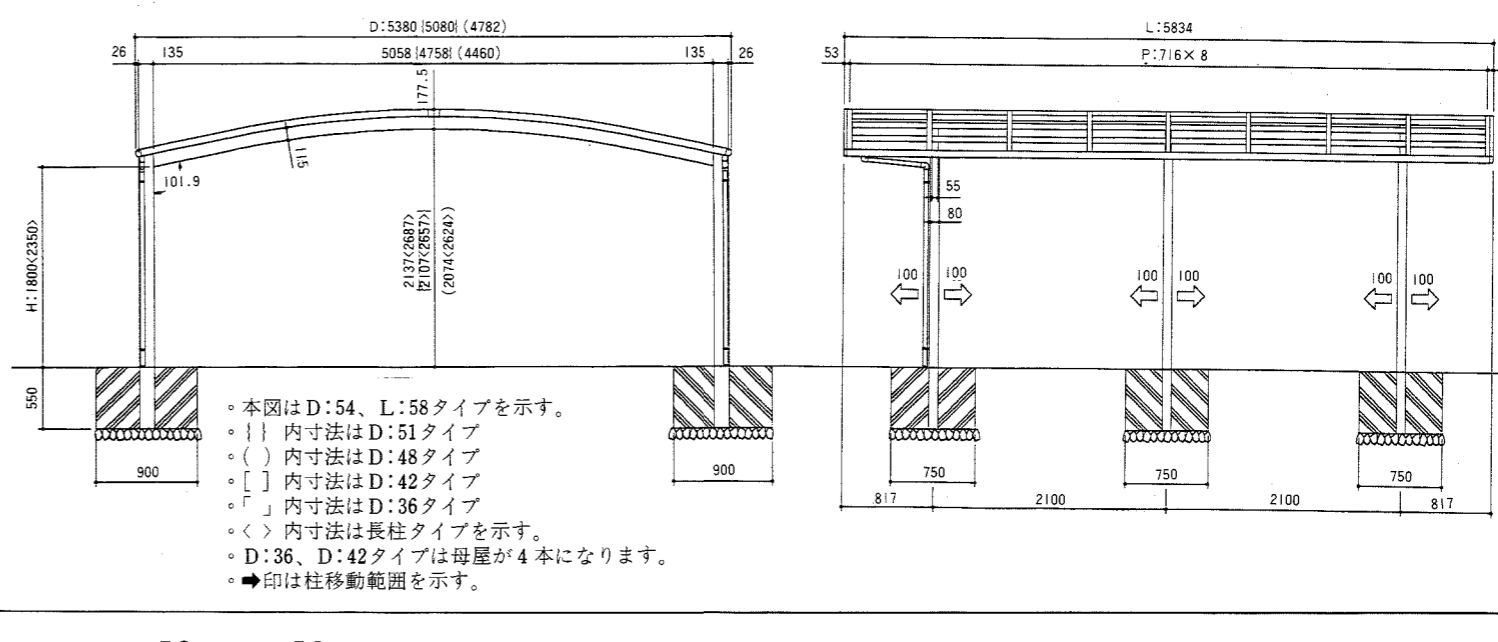
L:58



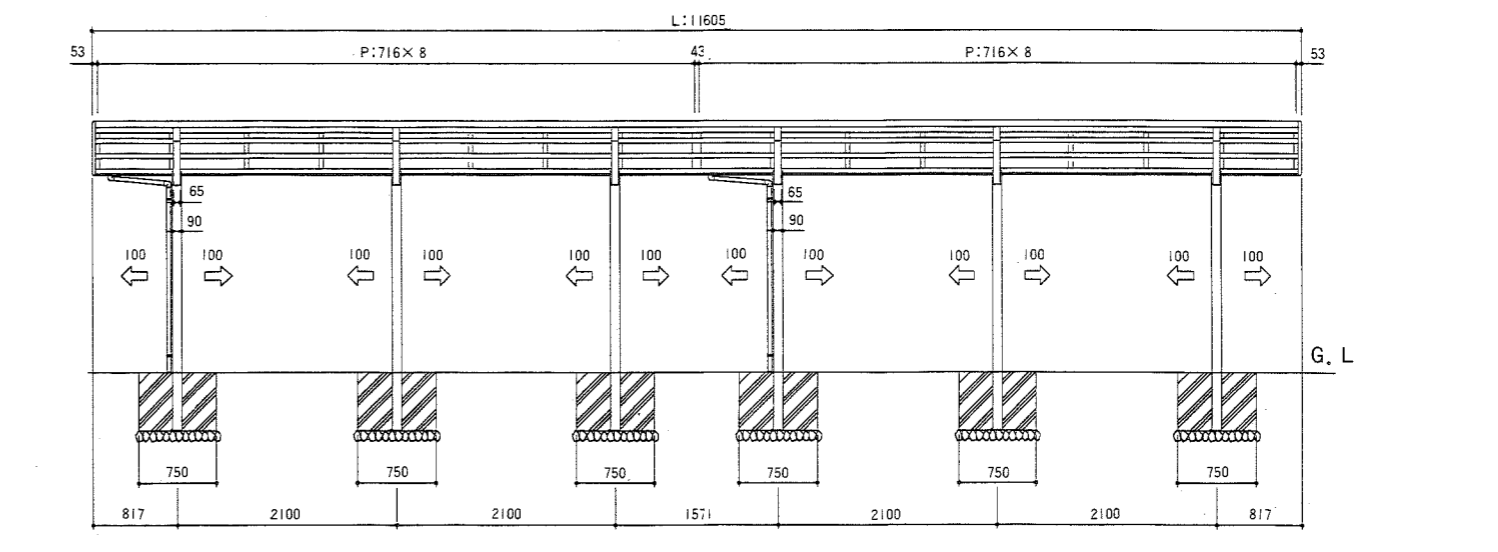
## ■エクジスワイドR姿図 L:51



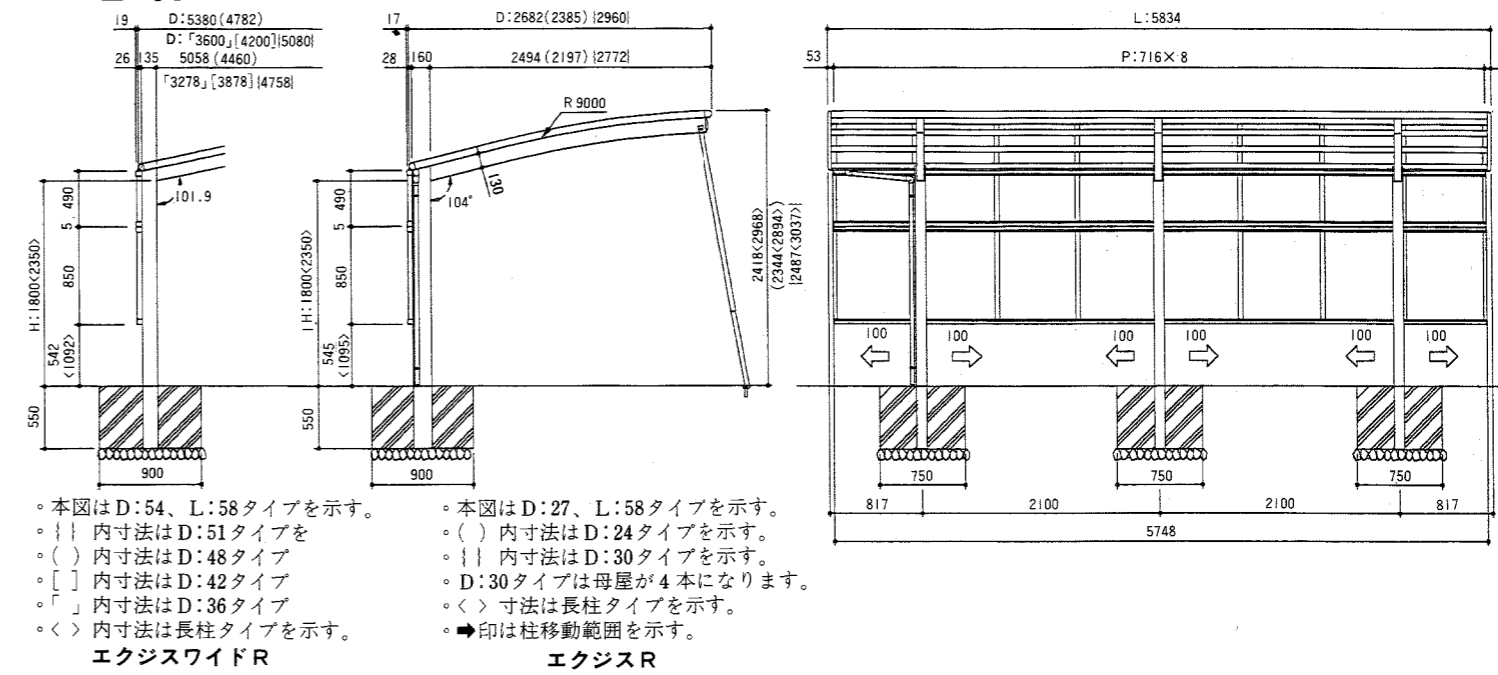
L:58



L:58+L:58

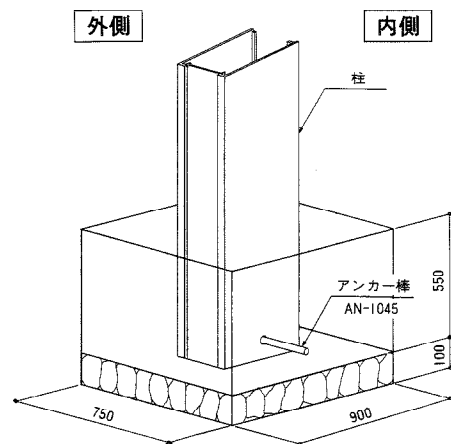


L:58

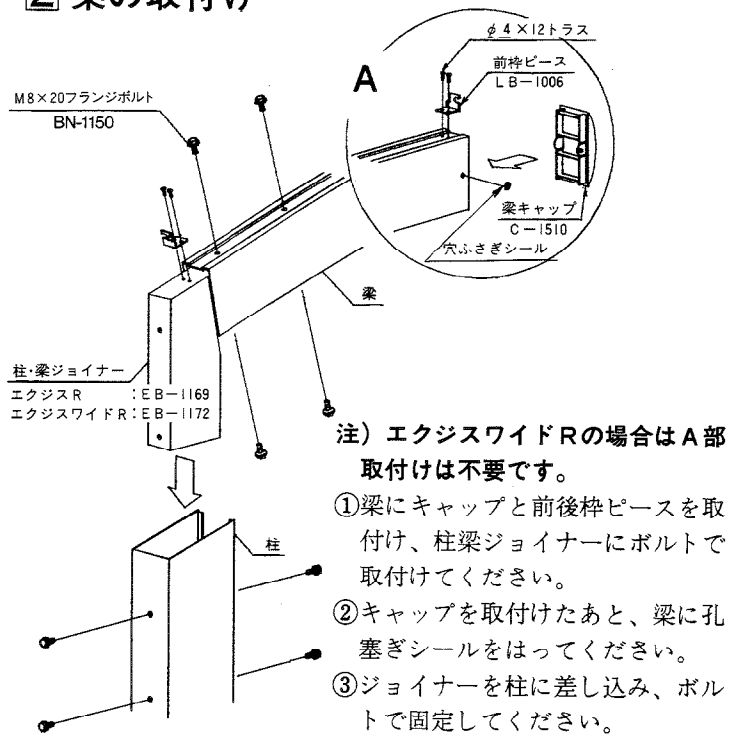


### 1 基礎の施工

- ①屋根に水勾配をつけて施工してください。
- ②コンクリートの施工は、骨組み完了後に行なってください。
- ③柱の固定位置は納まり図を参照してください。
- ④必ずアンカー棒を使用してください。
- ⑤基礎寸法及び埋め込み寸法は、図の寸法以下にならないように施工してください。
- ⑥柱の移動は範囲を守ってください。

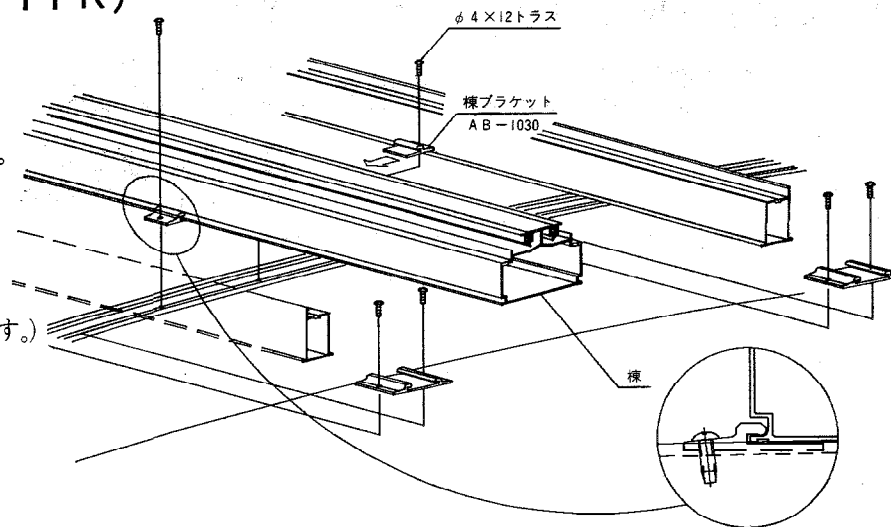


### 2 梁の取付け



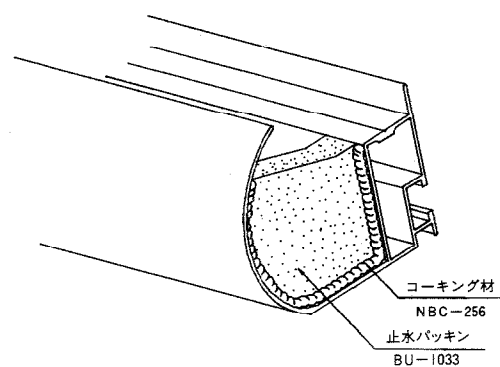
### 4' 棟、後枠の取付け (エクジスワイドR) 母屋の取付け

- ①母屋に横材ブラケットを (L:51タイプ2個 L:58タイプ3個) ずつ差し込んでください。
- ②母屋は図の様に棟をはさんで左右対称になるように取付けてください。
- ③納まり図を参照して横材ブラケット及び、棟ブラケットを梁に仮止めしてください。(本締めは、たる木を取付けた後に行ないます。)
- ④ワイドタイプには前枠はありません。後枠は④を参照して取付けてください。



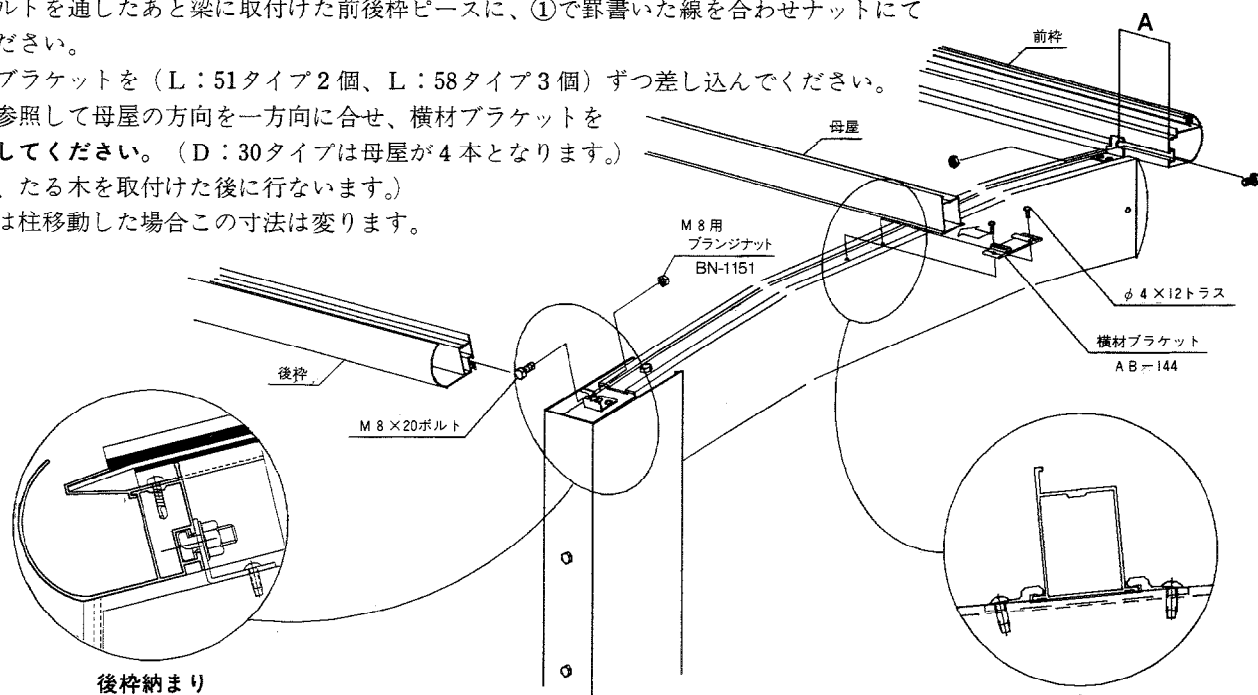
### 3 止水パッキンの取付け

- ①図のように止水パッキンを取付け、コーキング剤を十分に施してください。コーキングが不十分だと雨漏りの原因となりますので注意してください。
- ②後枠に落し口と塞ぎ材を取付けてください。(⑦雨樋の組立参照)



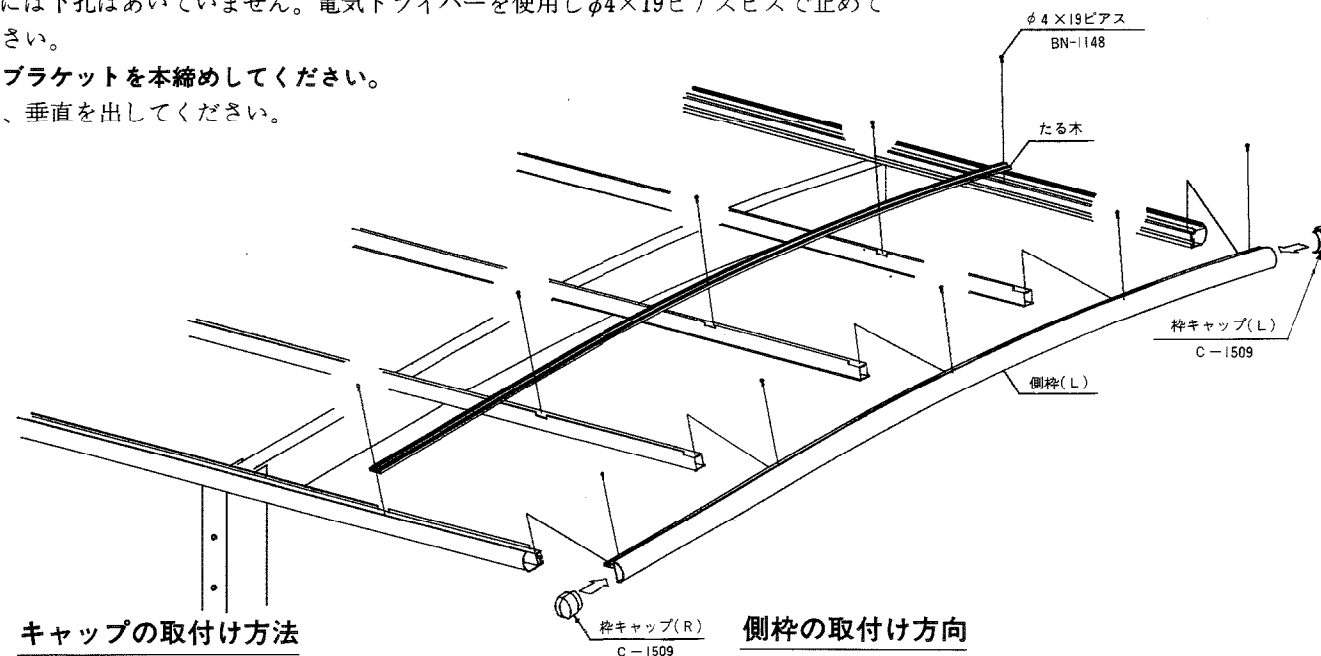
### 4 前後枠、母屋の取付け (エクジスR)

- ①前後枠に梁の中心、A寸法 (L:51タイプ前後枠端部より1127.5mm (L:58タイプ前後枠端部より785.5mm) を野書くなどして位置を出してください。
  - ②前後枠にボルトを通したあと梁に取付けた前後枠ピースに、①で野書いた線を合わせナットにて固定してください。
  - ③母屋に横材ブラケットを (L:51タイプ2個、L:58タイプ3個) ずつ差し込んでください。
  - ④納まり図を参照して母屋の方向を一方に合せ、横材ブラケットを梁に仮止めしてください。(D:30タイプは母屋が4本となります。)(本締めは、たる木を取付けた後に行ないます。)
- 注) ①の寸法は柱移動した場合この寸法は変ります。



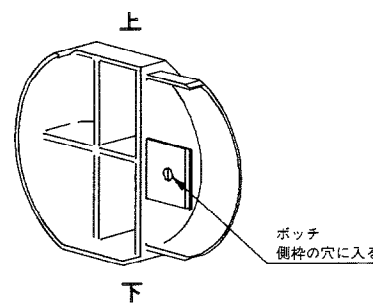
### 5 側枠、たる木の取付け

- ①側枠の両側に前後枠キャップを取付けてください。キャップには左右があります。図の様に切り込みのある方を上にしてキャップのポッチが側枠の穴に入るよう取付けてください。
- ②下図を参照して、すべてのたる木を前後枠 (棟) 及び母屋に取付け後、側枠を取付けてください。側枠には左右があります。図を参照して取付けてください。母屋には下孔はあいていません。電気ドライバーを使用しφ4×19ピアスビスで止めてください。
- ③横材ブラケットを本締めしてください。
- ④対角、垂直を出してください。



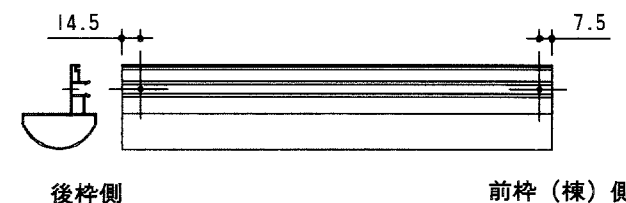
#### キャップの取付け方法

図の様に切り欠きのある方を上になるように取付けてください。

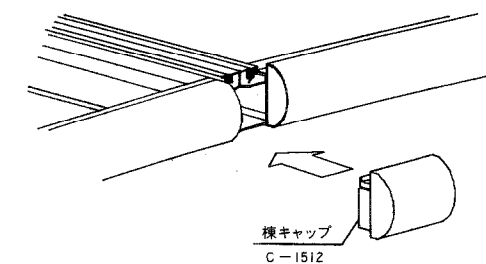


#### 側枠の取付け方向

端から最初の穴までの寸法が前と後ろで異なりますので下図を参考に判定してください。



- ⑤ワイドタイプは棟キャップが付きません。側枠取付後に棟に取付けてください。面材施工後に棟キャップは取付きませんのでご注意ください。

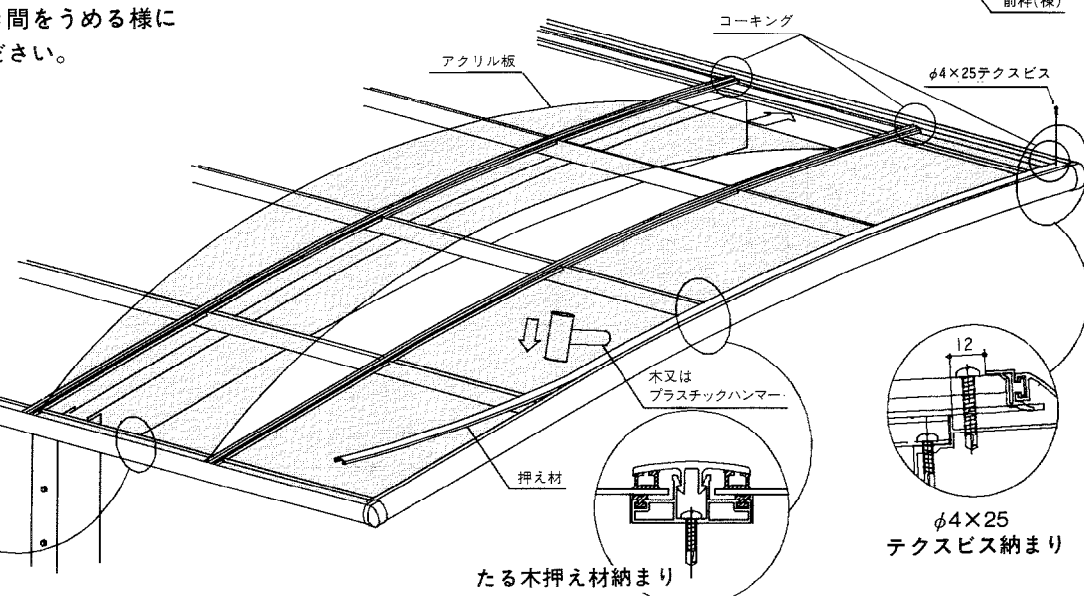
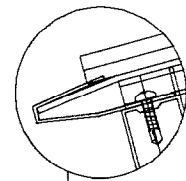


## 6 面材及び押え材の取付け

- ① アクリル板は先に後枠ピースに突き当たるまで差し込んでから前枠（棟）に入れてください。
  - ② 押え材を前枠（棟）のビードに押し当て、前枠（棟）側より木又はプラスチックハンマーでたたき込んでください。
- 途中、浮いているところがないよう確認しながら行ってください。
- ③ 各押え材を図の位置にφ4×25テクスビスで前枠（棟）にビス止めしてください。
  - ④ 右図を参照して前枠（棟）側コーナー部及び前枠（棟）と全ての押え材の接合部にコーキングを施してください。

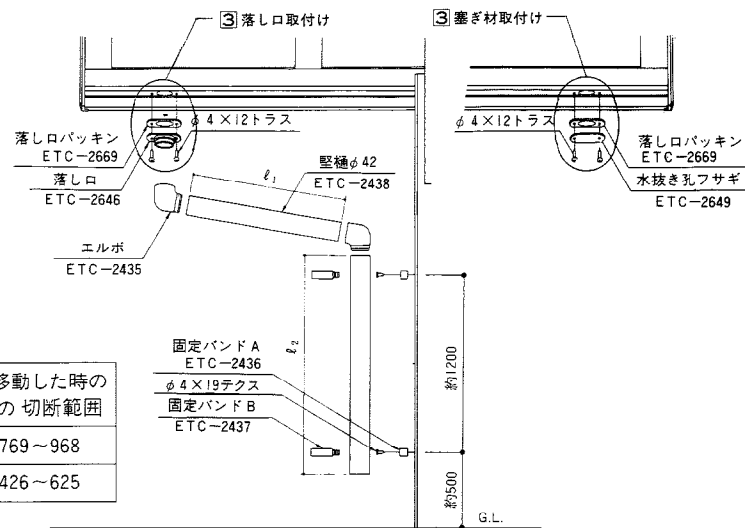
注) ビードと押え材のすき間をうめる様にコーキングをしてください。

後枠ピース  
アクリル納まり



## 7 雨樋の組立て

- ① 堅樋の長さ (ℓ<sub>1</sub>, ℓ<sub>2</sub>) は現場に合わせて切断してください。
  - ② 雨樋は仮組みしてから接着剤を使って組み立ててください。
  - ③ 使用しない側の孔には水抜き孔塞ぎを取付けてください。
- 注) 横樋（堅樋の横方向部分）は勾配をつけてください。  
注) 固定バンドは図のように柱の溝にテクスビスで止めてください。

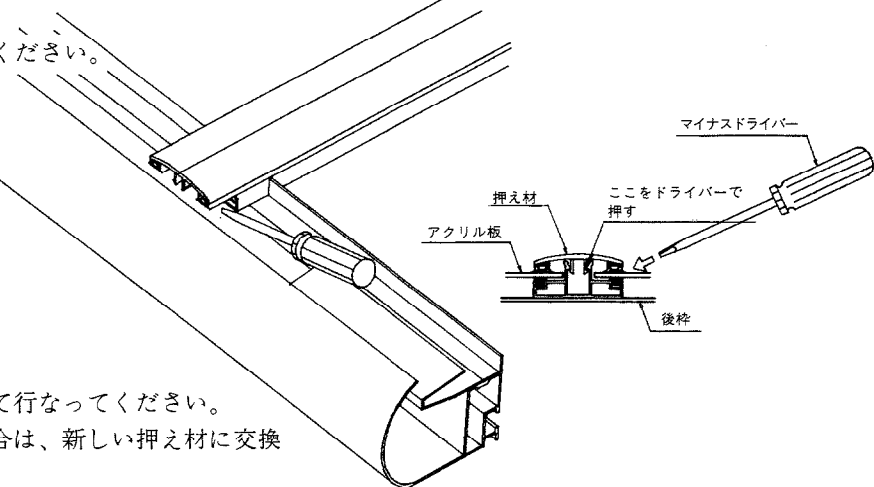


	柱標準仕置でのℓ <sub>1</sub>	柱移動した時のℓ <sub>1</sub> の切断範囲
L:51	869	769~968
L:58	525	426~625

## A 屋根葺材の補修方法

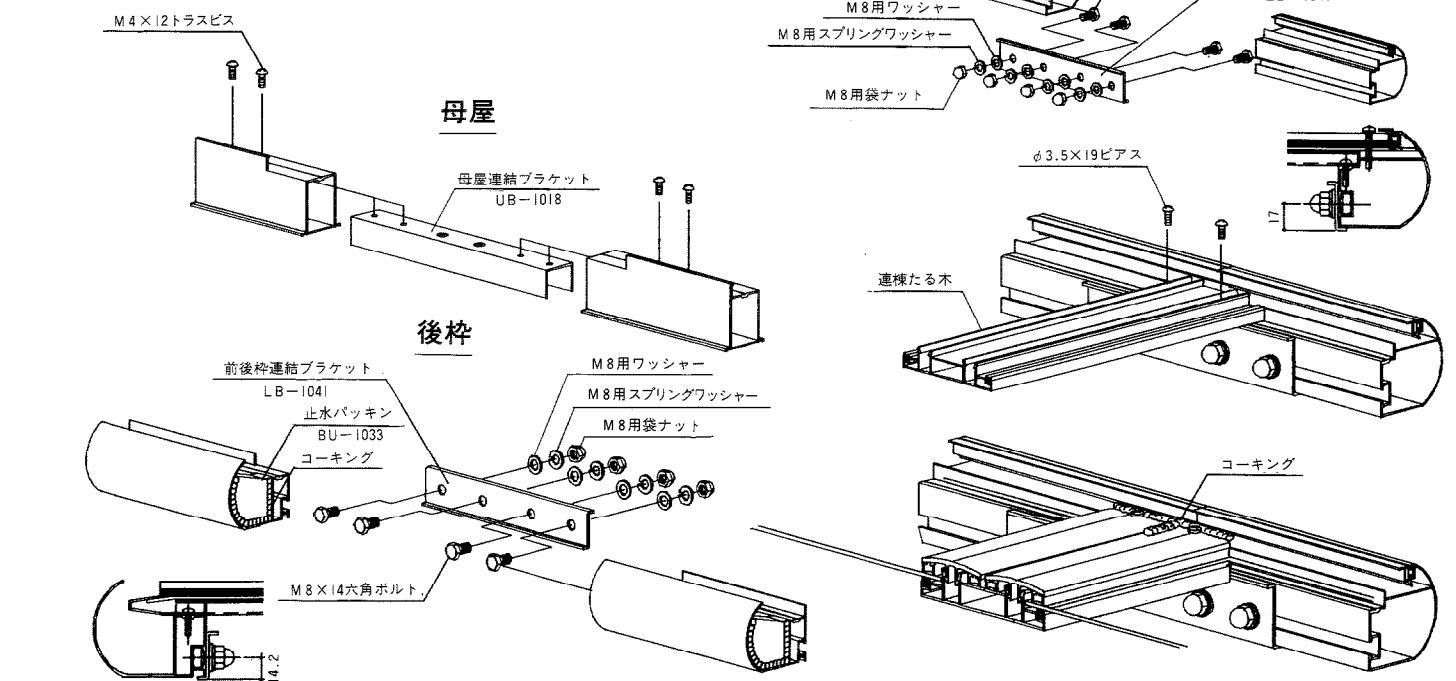
- ① 押え材を前枠（棟）に止めているビスを外してください。
- ② 図のように、後枠側から押え材とたる木の間にマイナスドライバーを差し入れ、押え材のツメを押しながら上に持ち上げるようにはぎ取ります。

- ・ 押え材が途中で折れることの無いよう注意して行ってください。
- ・ 一度折れ曲がったり形状に異常が見られる場合は、新しい押え材に交換してください。



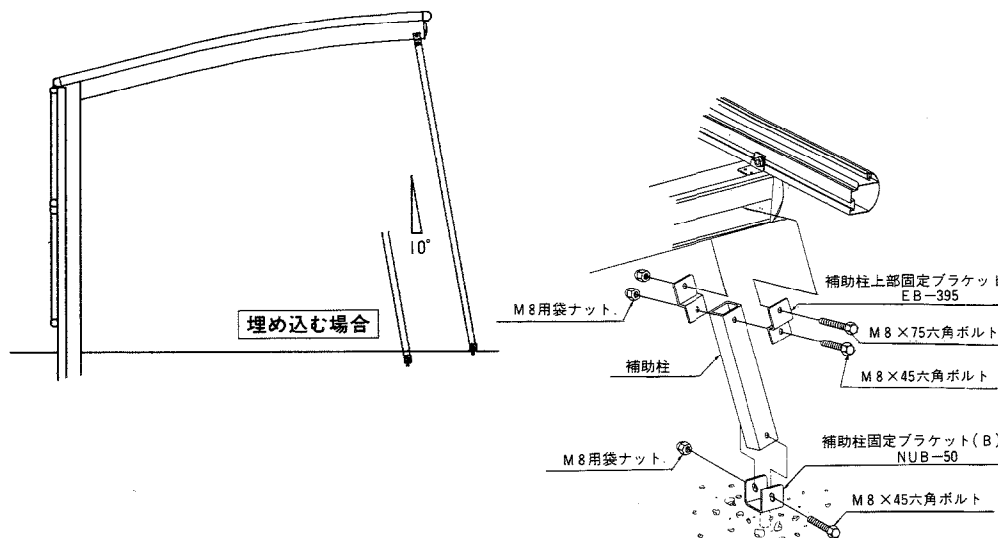
## B 連棟部の組立て（連棟タイプのみ）

- 注) 横材の切詰めは必要ありません。
- ① 右図のように母屋連棟部にφ6の孔を4箇所あけてください。
  - ② 本体説明の①基礎の施工、②梁の取付け、③止水パッキンの取付けを行なってください。
  - ③ 前枠、後枠、母屋を柱、梁に仮止めしてください。
  - ④ 図を参照して、横材を連結してください。
- 注) 前後枠連結ブラケットには上下があります。図を参照して取付けてください。
- ⑤ 連棟たる木を取付けてください。
  - ⑥ 本体説明の⑤側枠・たる木の取付け、⑥面材及び押え材の取付けを行なってください。
  - ⑦ 連棟部の押え材の図の位置にコーキングを施してください。

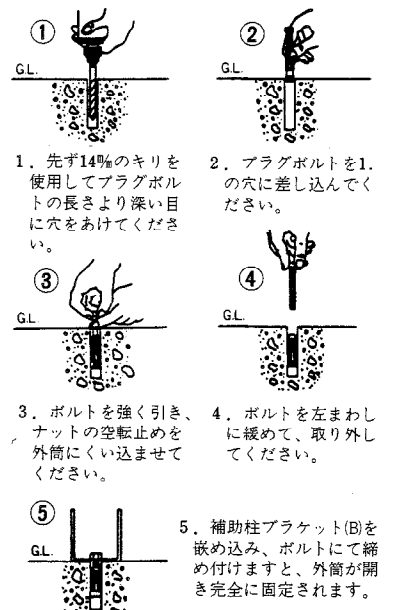


## C 補助柱の取付け（別売部品）

- ① 補助柱を埋め込む場合は、ブラケット(B)とプラグボルトをアンカーの代わりに取付けてください。
- ② 埋め込まない場合は、ブラケット(B)をコンクリートにAYプラグボルトで取付けてください。
- ③ 補助柱の位置決めの際、補助柱が長い場合は切り詰めてください。



### AYプラグボルト使用方法



(注) プラグボルトを取り除く場合、一応ボルトを奥へ押し込んでから引き抜いてください。